

# 東京新聞 暮らすめいと



東京新聞読者の生活情報紙

お元気ですか.....

心臓パートIV



南淵 明宏 38

看護師さんが一人で患者さんの車椅子を押しながら、点滴台も巧みに操って移動している様をよく見かけます。そんな光景が目に入ると思い出すのが頼山陽が薩摩を旅した時に作った漢詩です。

薩南の村女 可憐の生  
竹策(竹で編んだかばん)  
芒鞋(わらじ) 暁晴を追ふ  
果下(ポニー、トカラ馬か?)  
の薪を載するは皆な牝馬  
一人能く数駄を領して行く

小柄な女性が本当によく働く様が描かれています。ついでに馬も！ 女性は昔から出産、育児、家事、介護だけではなく、生まれて死ぬまで働きづめ。

## 男の愚かさが根源に

### 人間の不幸

私など手術をしていないときは居心地の良いスペースを見つけてはネコのように昼寝ばかりしています。手術をしていない外科医は病院の粗大ゴミです。

何もしない男はまだまし

かもしれません。ねたみ、悪口、陰謀、怪文書。足の引っ張り合いをするのはヒマな雄ばかりです。さらに暴力、紛争、略奪、不正。これみな男性の専権事項です。

ある看護師さんが「看護学校の運動会の騎馬戦は女同士ですごかったですよー」と言っていました。これは何かの間違いでしょう。

およそ人間の不幸の源はみな男の愚かさから出たもの。ギリシャ神話ではエルメスはパンドラに虚栄心と貪欲さ、愚かな好奇心を授

けた、とされていますが、その企ての元凶は男神ゼウスの権力欲から。愚かさの根源はいつも男なのです。

男性に学問や知識や宗教が必要になるのは「もともと愚かであるから」。神が必要なのも男性です。女性には必要ないのかも知れません。なぜなら女性は自ら人間を創造できます。自身自らが神なのです。



プロフィール

なぐち あきひろ

奈良県立医科大学卒。シドニーセント・ビンセント病院、国立シンガポール大学病院などを経て、2010年12月から品川区の大崎病院東京ハートセンターのセンター長。医学博士。